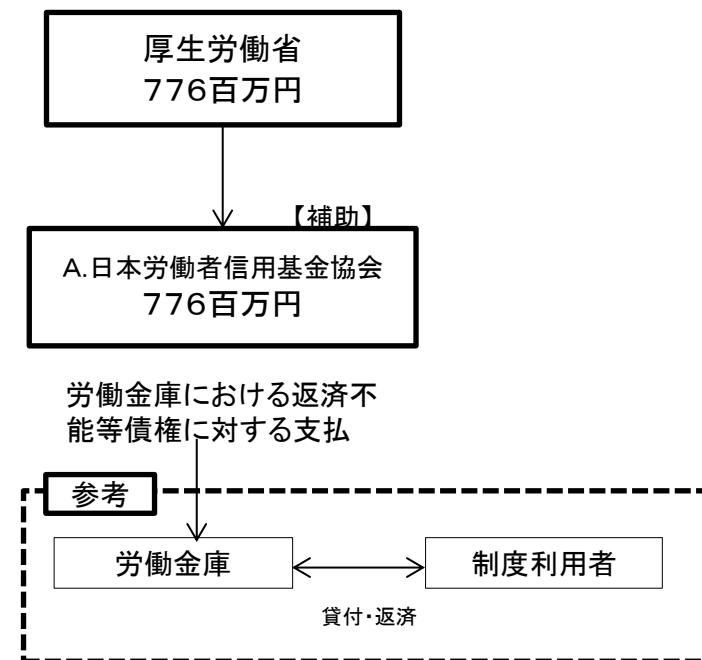


平成25年行政事業レビュー(厚生労働省)

事業名	就職安定資金貸付等事業費		担当部局	職業安定局派遣・有期労働対策部		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度～平成22年度 ※平成23年度以降は経過措置		担当課室	企画課就労支援室		就労支援室長 畠 俊一	
会計区分	労働保険特別会計(雇用勘定)		政策・施策名	IV-3-1 高齢者・障害者・若年者等の雇用の安定・促進を図ること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	雇用保険法第62条第1項第5号		関係する計画、通知等	-			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	事業主都合等による離職に伴い住居を喪失した者や、住居を喪失してネットカフェ等に寝泊まりしながら不安定な就労をしている者に対して住宅入居初期費用等の必要な資金の貸付を行うことにより、これらの者の住居と安定的な就労機会の確保を支援する。						
事業概要(5行程度以内。別添可)	<p>ハローワークと労働金庫の連携により、労働金庫は住宅入居初期費用や生活・就職活動費等を貸与し、ハローワークは貸付対象者に対してきめ細やかな職業相談・職業紹介等を行う。</p> <p>本事業では、貸付利用者における初回の貸付実行日から6ヶ月以内に安定した雇用が見込まれる就職をした場合の貸付金返済免除費用、返済不能となった場合の貸付金の損害費用については、貸付金にかかる信用保証をおこなっている日本労働者信用基金協会が労働金庫へ補填することとなっているが、国が最終的にはその補填経費に関し、日本労働者信用基金協会に対して、補助金を支出する。</p> <p>なお、新規の貸付は、平成22年9月をもって終了している。</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額(単位:百万円)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算の状況	当初予算 16,040	5,161	1,909	438	341	
	補正予算						
	繰越し等						
	計	16,040	5,161	1,909	438	341	
	執行額 3,698	3,943	776				
	執行率(%) 23.1	76.4	40.6				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値(年度)
	平成22年4月～7月の貸付対象者のうち、貸付後6ヶ月以内に6ヶ月以上の雇用が見込まれる就職をした者の割合が40%以上		成果実績 %	51	-	-	-
			達成度 %	127.5	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	貸付件数		活動実績 (当初見込み)	469 (23000)	-	-	-
単位当たりコスト	—		算出根拠				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	補助金	438	341	経過措置のため、信用保証機関による補填件数が減少しているため。			
		計	438	341			

事業所管部局による点検										
	項目	評価	評価に関する説明							
国 必 要 投 入 の 性 能	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	—								
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国の施策による貸付の補填費用であるため国が実施するべき事業である。							
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	—								
事業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	安定的な貸付を実施するためあらかじめ支出先となる信用保証機関を要綱に定めているところ。							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	—								
	単位当たりコストの水準は妥当か。	—								
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—								
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	補助金の精算に当たっては、本事業に必要な経費に限定されているか精査している。							
事業 の 有 効 性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	回収金等の発生により、損害保証金が当初の見込みを下回ったため不用が発生したものと把握している。							
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	—								
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	—								
重 複 排 除	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—								
	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—								
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名							
点 検 結果	新規融資の申請受付は終了しているものの、返済不能となった債権を信用保証機関が補填した場合は引き続き国が補助する必要がある。									
	外部有識者の所見									
点検対象外										
行政事業レビュー推進チームの所見										
現 状 通 り	就職安定資金貸付等事業費は概ね妥当であるが、引き続き効率的な執行に努めること。									
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況										
現 状 通 り	-									
備考										
関連する過去のレビューシートの事業番号										
	平成22年	764	平成23年	691						
	平成24年	609								

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本労働信用基金協会	労働金庫から引き継いた債権に対する欠損補填等を行う	776		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					